

トピック 本土復帰40周年をむかえた沖縄の今

沖縄本土復帰40周年記念式典開催(読売新聞2012/5/15ほか)

ニュース解説 沖縄が「本土」に復帰してすでに40年。しかし、いわゆる「沖縄問題」に未だ解決の糸口が見えない。この記事はそれを端的に現している。なぜ日本政府と「沖縄との溝が埋まらない」のかということが、いわゆる「沖縄問題」を考えるうえで最も重要な点である。その「溝」の要因は、単に在日米軍専用施設の約75%が沖縄県に集中していることだけではない。例えば、日米地位協定における治外法権的な条項への不満や、沖縄戦における悲惨な体験、その後日本から切り離され27年間も米軍に統治されてきたことに加え、さらに裁判権や選挙権を制限されたために、基本的人権の一部すら守られなかったという歴史的な背景を知らなければ問題の本質を理解することはできない。沖縄問題の「溝」は、日米安全保障条約を最優先し懐柔策として予算を「ばらまき」する政府と、沖縄県民の「感情」の問題という側面が強いのである。米軍統治によって生じた経済格差を解消し自立経済を目指す沖縄振興計画は必要ではあるが、それだけでは憲法や日米安全保障条約、そして歴史問題を背景とした「沖縄問題」の本質的な解決に結びつかない。そこに「溝」があることを理解したい。

授業での活用 「沖縄問題」は複雑なので、何をどこまで深く掘り下げるのか、そして、できるだけ「客観的」に考えていくという点に注意を払う必要がある。しかし、だからこそ憲法や日米安全保障条約問題、国防の問題、国境問題などを考えるための教材として大きな可能性をもっている。留意すべきは、一つの立場から問題を批判し結論づけるのではなく、さまざまな考え方が存在することを知り、自分なりに考えること自体を重視するという点だろう。

そのためにまず重要なことは、他県とは異なり、かつては琉球王国という独立国であったが明治になって日本に統合されたこと、敗戦後米軍統治化におかれ40年前に日本に復帰したという歴史を押さえることである。

1429年	琉球王国誕生(明国との朝貢貿易)
1609年	薩摩(藩)による征服。薩摩＝幕藩体制による支配と清国への朝貢貿易の継続
1879年	琉球藩廃止。沖縄県設置
1945年	敗戦。米軍統治
1972年	「本土」復帰

現在問題となっているオスプレイの配備についても、「なぜ沖縄の人たちは反対するのか」と問題提起するのもよいだろう。たとえば「政府が繰り返し安全性を強調しても沖縄県民には説得力がないのはなぜか」と考えてみる。沖縄戦で4人に1人が亡くなったあとも日本から切り離されたという歴史と、現在でも広大な米軍基地が存在しているという事実をおさえれば「いつまで沖縄は・・・」という沖縄県民の感情を理解する糸口になる。

その一方で、復帰後過剰とも思える公共投資で環境破壊が進み、人口も増え続け今では約140万人にものぼる(2010年現在。鳥取県と島根県の合計より多く、人口密度で京都府より多い9位)。米軍基地負担への見返りとしての公共投資を主とした多大な予算配分にもかかわらず、相変わらず県民所得が46位という矛盾にも目を向け、掘り下げてもよい。ただし経済的自立は沖縄だけの特殊な問題ではない。「それでは米軍基地のない県はどうか」自分たちの地域経済の問題へと導くことも可能であろう。

実は、日本全体の問題が顕在化して本質が見えやすい場が沖縄であり、それこそが「沖縄問題」の本質である。そういう理解があれば、沖縄を契機とした日本のさまざまな問題の掘り下げも可能だと思われる。

参考文献:

大久保潤『幻想の島・沖縄』2009年 日本経済新聞出版社
宮城能彦『沖縄道-沖縄問題の本質を考えるために』2012年 ザメディアジョンエデュケーショナル

(沖縄大学教授 宮城能彦)